

テレビニュース報道番組の映像分析の必要性と課題 —東日本大震災報道の事例研究から—

原 由美子*

1 映像分析の必要性と課題

筆者は、これまでいくつかのテーマでニュースや報道番組の分析を行ってきた。古くは1990年代の日米報道比較⁽¹⁾、1995年の戦後50周年報道国際比較⁽²⁾、2001年の911同時多発テロの報道⁽³⁾、2015年の安保法制関連報道⁽⁴⁾、そして、2011年に発生した東日本大震災に関する報道の経年的な分析⁽⁵⁾などである。これらの中で、いつの場合にも、どのような内容が語られたかというコメントや発言（テキスト）とともに、どのような映像が用いられたかという映像に関しても分析項目の一つとして加えてきた。しかし、結果的に報道内容の記述や比較に用いてきたのはテキストをもとにしたデータが中心であり、映像そのものを分析の対象とすることは少なかった⁽⁶⁾。

しかし、テレビニュース報道においては、どのような映像がどのように用いられているかが、そのニュースの意味付けや視聴者に与える印象に大きくかかわっていると考えられる。実際にそのように考えて分析項目に加えてきたのだが、いざデータとして処理しようとするとなかなか困難が伴い、結局十分に分析を尽くさないままに終わってしまってきた。

今回、2018年3月に発生から丸7年が過ぎた東日本大震災に関して、その7年分の報道を分析するにあたり、映像に関する分析の必要性を強く感じ、事例的にではあるがいくつかの分析を試みた。本稿では、その一端を紹介し、今後の可能性や課題について考えてみたい。

2 象徴的事物の存在 東日本大震災 3.11番組の分析から

2-1 映像への着目

東日本大震災関連報道は、これまでの研究により、毎年3月に集中することが明らかになっている⁽⁷⁾。さらに詳細にみれば3月11日を中心とする1週間に集中している。そこで今回の分析では、7年分の3月11日を中心とする週（3月8日～14日）の関連報道を対象に分析を試みると同時に、3月11日の番組、3月11日午後2時46分を含む番組と、焦点を絞りながら分析を進めていった⁽⁸⁾。

分析対象を絞り込む中で、3月11日を中心とする1週間については、関連番組に関するメタデータを分析対象とし、伝えられた内容の特徴や変遷を分析した。さらに対象を絞り込んだ3月11日の番組では、被災地からの中継を含んだ番組を対象とし、どのような地域がどのような出演者とともに伝えられてきたかを分析することにした。これら进行分析の中で、中継地点として選ばれる地点には、震災を象徴する事物が存在していることが多いこと、そして、中継以外にもそれらの風景や事物の映像が繰り返し使用されていることに気が付いた。そこで、3月11日の番組およ

*はら ゆみこ NHK 放送文化研究所 特任研究員

び午後2時46分を含む番組の分析では、これらの象徴的な事物の映像がどのように使用されているかを分析の中心に据えることにした。

2-2 中継地点と象徴的事物

3月11日の番組で中継地として選ばれていた地点の上位は、以下のとおりである。

- 1位 岩手県陸前高田市、2位 宮城県石巻市、3位 福島県浪江町、
4位 宮城県南三陸町、5位 宮城県気仙沼市、6位 宮城県名取市、
7位 岩手県宮古市、8位 岩手県大槌町、9位 福島県楢葉町、10位 福島第一原発

これらは、3月11日を中心とする1週間でも言及頻度が高く、震災復興の定点観測の場になっているとも考えられる。その中で、これらの市や町には、震災を象徴する風景や事物が存在していることに気づく。それぞれの代表的な事物は、次のようなものである。

- 1位 岩手県陸前高田市：「奇跡の一本松」「ベルトコンベアー（希望の架け橋）」



【写真1】 2015年 フジ「震災と原発と日本の覚悟」

- 2位 宮城県石巻市：「大川小学校」「日和山公園」（鹿島御児神社）



【写真2】 2012年 NHK「明日へ 震災から1年」

- 3位 福島県浪江町：「請戸地区」（請戸漁港、請戸小学校）そこから見える「福島第一原発排気塔」



【写真3】 TBS「3.11 7年目の真実」

4位 宮城県南三陸町：「志津川地区」（防災対策庁舎）



【写真4】 2013年 フジ 「希望の轍2013」

「南三陸さんさん商店街」



【写真5】 2017年 フジ 「めざましどようび」

5位 宮城県気仙沼市：「鹿折地区」（第18共徳丸）



【写真6】 2013年 日テレ 「情報ライブミヤネ屋」

6位 宮城県名取市：「閑上地区」（閑上中学校）



【写真7】 2016年 NHK 「明日へ つなげよう」

7位 岩手県宮古市：「田老地区」（たろう観光ホテル、防潮堤）



【写真8】 2012年 日テレ「復興テレビ みんなのチカラ」

8位 岩手県大槌町：旧役場庁舎



【写真9】 2013年 フジ「FNNスピーク」

9位 福島県楢葉町：除染廃棄物（黒い袋）



【写真10】 2016年 NHK「明日へつなげよう」

10位 福島第一原発



【写真11】 2015年 日テレ「情報ライブミヤネ屋」

これらのうち、登場頻度の高い3つの事物を取り上げ、その現れ方を見てみた。

3 3つの事物の事例から

3-1 3事例の出現状況

3月11日午後2時46分を含む番組での3つの事物の出現状況は表1のとおりである。以下、それぞれについて、少し詳細にみてみよう。

表1 3アイテムの出現状況 (3月11日午後2時46分を含む番組)

				第18 共徳丸	南三陸町防 災対策庁舎	奇跡の 一本松
2012	NHKG	明日へ～震災から1年(第4部)	13:05～16:25	●		●
	日テレ	復興テレビ(第1部) みんなのチカラ 3.11	12:45～17:25	●	●◎	
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	13:00～16:00	●	◎	◎
	TBS	3.11 絆スペシャル	13:54～16:54	◎		
	フジ	東日本大震災から1年 希望の轍	12:00～16:00			◎
2013	NHKG	特集 明日へ～支えあおう～	14:38～16:00			
	日テレ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55～15:50	●◎		
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	13:55～18:53	◎	●	◎
	TBS	大震災2年 復興と現実	14:05～17:00			●◎
	フジ	希望の轍 2013 東北を歩こう	14:00～15:52	◎	●◎	●
2014	NHKG	情報まるごと(拡大)	14:05～15:35		●	●◎
	日テレ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55～15:50			
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	13:55～19:00		●◎	●◎
	TBS	復興と未来“これから”のために	14:00～15:50	●	●	
	フジ	あの日が教えてくれること	14:00～16:50		◎	
2015	NHKG	情報まるごと	14:05～15:35		●	
	日テレ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55～15:50			◎
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	14:00～19:00		●◎	◎
	TBS	大震災4年 NスタSP	13:55～15:53		●◎	◎
	フジ	震災と原発と日本の覚悟	14:00～16:50		●	●
2016	NHKG	特集 明日へ～つなげよう～	14:05～15:31	●		
	日テレ	情報ライブ ミヤネ屋	13:55～15:50			
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	14:00～19:00		◎	◎
	TBS	Nスタ 3.11 震災5年	13:55～15:53		◎	●◎
	フジ	直撃LIVE グッデイ!	13:55～15:50	●	●◎	
2017	NHKG	特集 明日へ ～つなげよう	13:50～15:26			
	日テレ	震災6年 未来への、キオク	13:30～15:00			
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	13:59～15:30		●◎	◎
	TBS	3.11 7年目の真実	14:00～15:54			
	フジ	日本を襲う巨大地震忘れていないか 3.11	14:00～16:30			
2018	NHKG	特集 明日へ ～つなげよう	13:05～17:00			
	日テレ	東日本大震災から7年 災害の新常識	13:15～15:00			●◎
	テレ朝	スーパーJチャンネルスペシャル	13:55～15:20		◎	◎
	TBS	生死を分けろ 72時間 巨大地震にあなたは	14:00～16:00		●◎	
	フジ	その避難は正解か!?	13:00～15:10		●	

◎中継 ●VTR または写真

「第 18 共徳丸」

津波によって内陸に打ち上げられた船の映像は、震災の威力のすさまじさを示す存在として震災直後、数多く使われていた。中でも、宮城県気仙沼市鹿折地区に打ち上げられた漁船「第 18 共徳丸」は、その代表格である。

表 1 に示すように、この「第 18 共徳丸」は、2012 年、2013 年に頻繁に登場するが、2014 年以降は大きく減少し、VTR や写真でたまに登場するだけになる。2013 年 10 月に解体・撤去されたためである。

2012 年 3 月 11 日、TBS の「N スタ×NEWS23 クロス 3.11 スペシャル」では、第 18 共徳丸の前を中継拠点として番組を伝えた。テレビ朝日の「つながろう！ニッポン」でも「気仙沼市は第 18 共徳丸を保存の方針だが住民からは反対の声もある」ことを伝えている。

2013 年 3 月 11 日には、フジテレビの「東日本大震災から 2 年 希望の轍 2013 東北を歩こう」が、「第 18 共徳丸」前を中継拠点としたほか、日本テレビの「情報ライブミヤネ屋」、テレビ朝日の「スーパー J チャンネルスペシャル “震災” いまも…732 日目の真実」でも中継映像で伝えた。このほか、NHK 総合の「お元気ですか日本列島」などで、この船を「保存するか解体するか」が議論となっていることを伝えていた。

2014 年になると、この時間帯の番組で「第 18 共徳丸」映像を伝えたのは 1 番組だけになる。前述したように「第 18 共徳丸」は、2013 年 10 月に住民アンケートの結果を受けて解体された。この日の放送では、保存解体問題のなかの解体事例として紹介されている。この時間帯の番組以外でも、日本テレビ「3.11news every. 特別版」と TBS 「N スタ」が、市街地に残されていた「第 18 共徳丸」が解体されたため観光客が減り、鹿折地区にできた復幸マルシェの売り上げが落ちたことを伝えていた。

2015 年以降、2016 年に 2 番組で映像が映し出されたが、いずれも、解体された遺構の事例として紹介したものであり、2017 年、2018 年には登場しなくなった。

「第 18 共徳丸」の存在との直接の因果関係を証明することは困難だが、2012 年、13 年には中継地として第 1 位にランキングされていた気仙沼市は、2014 年には 4 位、2015 年以降は上位に登場しなくなった。

「防災対策庁舎」

津波に襲われ骨組みだけとなった、宮城県南三陸町の「旧防災対策庁舎」も、震災による津波被害の象徴として、多くの番組に登場する。この庁舎は、前項の「第 18 共徳丸」とは異なり震災遺構としての保存が決まり残存しているため、2018 年に至る 7 年間、毎年映像が出現し続けている。

「防災対策庁舎」にかかわる内容の推移をみると、2012 年 3 月 11 日は、日本テレビの「復興テレビ みんなのチカラ 3.11」で「東日本大震災の惨事を物語る象徴の一つ」として中継で伝えたほか、テレビ朝日「つながろう！ニッポン」でも中継映像を伝えている。2013 年、この時間帯の番組では、中継映像はフジテレビの「希望の轍 2013 東北を歩こう」のみだが、テレビ朝日「スーパー J チャンネルスペシャル」でも VTR 映像が伝えられた。この時間帯の番組以外でも、NHK 総合「おはよう日本」、日本テレビ「スッキリ」などで、被災地の現状を伝える中で言及されている。

2014 年になると、この時間帯の番組では 4 つの番組が庁舎の映像を伝えている。フジテレビ

「とくダネ!」は「防災対策庁舎前」を中継拠点として番組を送った。各番組で、新たな町づくりが始まる中で保存か解体かで議論が割れていることが伝えられる。2015年にも4番組が伝え、テレビ朝日「スーパーJチャンネルスペシャル “4年後の姿”」は、庁舎前を中継拠点とした。この年も、各番組で「保存と解体で二転三転する状況に住民が翻弄されている」状況が伝えられている。

震災発生から5年を経た2016年には、テレビ朝日の「スーパーJチャンネルスペシャル 東日本大震災から5年～全編LIVE “25” のいま～」フジテレビ「LIVE2016 あしたのニュース&すぽると!」の2番組が庁舎前を中継拠点として伝えた。この年、「庁舎側は復興祈念公園とし、川をはさんでかさ上げされた地区に商業施設などを誘致」という案が作られたが、庁舎の保存はまだ決まっていない。この日の「防災対策庁舎」関連項目では、新しい町づくりに関する情報、庁舎前の献花台で祈る人々の様子などが伝えられていた。

2017年になると、「防災対策庁舎」の周辺に「震災復興祈念公園」が作られることが伝えられるが、話題の中心は、かさ上げ地に移設された「南三陸さんさん商店街」からのものに移る。2018年にも、南三陸町を中継で伝えた番組は2番組（テレビ朝日「東日本大震災から7年 スーパーJチャンネルスペシャル」TBS「Nスタスペシャル 震災7年」）あるが、「南三陸さんさん商店街」が中継の中心を占めるようになっている。

このように、周辺の土地が整備され、かさ上げされた対岸に復興商店街が移設されると、「防災対策庁舎」に関する言及は減り、商店街に関する情報に重心が移る。映像的にも「防災対策庁舎」は、商店街の向こうの遠景として映し出されるようになった。

「奇跡の一本松」

岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」も、前項南三陸町の「防災対策庁舎」と似たような経緯をたどっている。

2012年、TBS「朝ズバ!絆スペシャル」などで「奇跡の一本松」は「復興のシンボル」「復興の象徴」などの言葉とともに映し出された。2013年になると、立ち枯れた一本松を「復興のシンボルとして復元」する作業が進められ（2012年7月完了）、復元された姿が多くの番組で映し出された。

2014年には、「一本松」の傍らに、かさ上げ工事のための土砂を運ぶ巨大なベルトコンベアーが建設され、「希望の架け橋」と名付けられる。この年と翌2015年は、「一本松」とベルトコンベアーの双方をともに映し出す番組が数多く見られた。

2016年になると、前項の「防災対策庁舎」の場合と同じように、「奇跡の一本松」周辺が「復興記念公園」として整備されることが決まり、そのことが伝えられた。「岩手県陸前高田市にはかつて7万本の松原があったが津波で一瞬のうちに姿を消した。その中で一本だけ残った『奇跡の一本松』、今日も復興を誓う住民を励ますように朝日を浴びていた」（テレビ朝日「ワイドスクランブル」）といった擬人化した表現も見られた。

2017年になると「一本松」を中継した番組は1番組のみとなり、隣接のかさ上げ地に7月オープン予定の商業施設「アバッセたかた」が紹介されるなかでの扱いとなる。2018年にもこの時間帯の2番組で中継映像が映し出されたが、その映像に添えられるコメントの中には、「津波に耐えた奇跡の一本松で知られる陸前高田市では…」（フジテレビ「FNNみんなのニュース」）というよ

うに、被災地を示す枕詞のような使用が見られるようになった。さらに、「夜明けとともに照らされた、復興への希望を象徴する奇跡の一本松。1万5000人以上の命が失われた東日本大震災から今日で7年。各地で深い祈りがささげられた」（日本テレビ「news every. 特別版 震災7年 知りたい災害新常識」）のように、陸前高田市を指すのではなく、震災全体を思い起こすための象徴として使用されるようになっていた。

4 象徴としての映像

4-1 “象徴”としての使用例

前節で詳しく見たように、「第18共徳丸」も「防災対策庁舎」も「奇跡の一本松」も、それぞれの固有の意味や文脈を持って伝えられることが大半であるが、それだけではなく、個別の文脈から離れて、震災やその被害あるいは復興・再生の象徴として映像が使われることも少なくない。

そこで、例として、毎年3月11日の午後2時46分に行われる1分間の黙とうを伝える映像の中でのそれぞれの出現状況を調べてみた。今回取り上げた3種の映像を比較的多く用いていたテレビ朝日とフジテレビの、毎年の黙祷シーンの映像を整理した結果を表2に示した。

2013年10月に撤去された「第18共徳丸」は2013年にテレビ朝日に登場するだけだが、「防災対策庁舎」はテレビ朝日で2014年、2017年の2回、フジテレビでは2013年、2016年の2回登場している。「奇跡の一本松」は、テレビ朝日で2012年、2013年、2014年、2016年、2018年の5回、フジテレビでは2012年のみであった。

黙祷シーンでは、事例に挙げた3種のほか、宮城県石巻市の大川小学校や宮古市田老地区の防潮堤、岩手県大槌町の旧町役場庁舎、福島県浪江町請戸漁港から見た福島第一原発排気塔などの映像も多用されている。宮城、岩手、福島各県からそれぞれの代表的な被災地や追悼会場からの中継映像を用いるのがひとつのパターンとなっているようだ。

また、これらの映像は、番組のオープニングタイトルにもよく用いられていた。いくつかの事例を【写真12、13】に示した。



【写真12】 2012年 TBS「Nスタ×NEWS23 クロス3.11絆スペシャル」



【写真13】 2016年 フジ「FNNスピーク」

これらは、それぞれの被災地を指し示すだけでなく、「震災遺構」あるいは「復興と再生」というような被災地に共通する問題の象徴として、さらに「東日本大震災」という出来事そのものを思い出させる象徴として使われていると考えられる。

表2 黙とう中の映像

	テレビ朝日	フジテレビ
【2012】	1 国立劇 B3.C14	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場会場内の人々	国立劇場会場の人々
	3 国立劇場天皇后両陛下	国立劇場天皇后両陛下
	4 時計 (宮城県南三陸町)	国立劇場会場の人々
	5 祈る女性 (☆時計・天皇后両陛下)	黙祷する人々 (宮城会場)
	6 祈る人々 (宮城県石巻市大川小学校) (☆時計・国立劇場)	黙祷する人々 (福島会場)
	7 海を見る人々 (岩手県宮古市) (☆時計・国立劇場)	黙祷する人々 (岩手県陸前高田市)
	8 黙祷する人々 (岩手県宮古市) (☆時計・国立劇場)	奇跡の一本松 (岩手県陸前高田市)
	9 捜索隊の黙とう (宮城県名取市) (☆時計・国立劇場)	国立劇場壇上慰霊台
	10 打ち上げられた船 (福島県浪江町) (☆時計・国立劇場)	
	11 祈る女性 (岩手県陸前高田市) (☆時計・国立劇場)	
	12 奇跡の一本松 (岩手県陸前高田市) (☆時計・国立劇場)	
【2013】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々
	3 国立劇場天皇后両陛下	防災対策庁舎 (宮城県南三陸町)
	4 時計	黙祷する人々 (宮城県南三陸町)
	5 奇跡の一本松 (岩手県陸前高田市) (☆時計・国立劇場)	海岸 (福島県いわき市)
	6 黙祷する捜索隊 (宮城県亶理町) (☆時計・国立劇場)	黙祷する人々 (福島県いわき市)
	7 福島第一原発排気塔 (福島県浪江町) (☆時計・国立劇場)	黙祷する人々 (岩手県大槌町追悼式会場)
	8 黙祷する防護服姿の人々 (福島県浪江町) (☆時計・国立劇場)	船の下の献花台 (宮城県気仙沼市)
	9 黙祷する男性の後ろ姿 (岩手県釜石市) (☆時計・国立劇場)	国立劇場壇上慰霊台
	10 打ち上げられた第18共徳丸 (宮城県気仙沼市) (☆時計・国立劇場)	
	11 黙祷する女性の後ろ姿 (岩手県宮古市田老地区) (☆時計・国立劇場)	
	12 女性の持つ錫杖 (岩手県宮古市田老地区) (☆時計・国立劇場)	
	13 国立劇場壇上慰霊台	
【2014】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場天皇后両陛下	国立劇場会場内の人々
	3 時計	国立劇場天皇后両陛下
	4 防災対策庁舎 (宮城県南三陸町) (☆日本地図・両陛下)	走る三陸鉄道 (岩手県三陸鉄道)
	5 防災対策庁舎・献花台 (宮城県南三陸町) (☆日本地図・両陛下)	車内から黙祷する人々 (岩手県三陸鉄道)
	6 旧町役場と祈る人々 (岩手県大槌町) (☆日本地図・両陛下)	黙祷する人々 (宮城県名取市)
	7 かれきとF1排気塔 (福島県浪江町請戸小学校) (☆日本地図・両陛下)	黙祷する人々 (福島県いわき市)
	8 奇跡の一本松 (岩手県陸前高田市) (☆日本地図・慰霊柱)	黙祷する人々 脩殿 (岩手県山田町追悼式会場)
	9 黙祷する人々 (岩手県陸前高田市) (☆日本地図・黙祷する人々)	国立劇場壇上慰霊台
	10 黙祷する人々 (福島県いわき市下矢田応急仮設住宅) (☆日本地図・黙祷する人々)	
	11 黙祷する人々 (宮城県石巻市大川小学校) (☆日本地図・黙祷する人々)	
	12 黙祷する人々 (岩手県宮古市田老防潮堤) (☆日本地図・黙祷する人々)	
【2015】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台 (☆日本地図)
	2 国立劇場会場内の人々	国立劇場会場内の人々 (☆日本地図)
	3 国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚 (☆日本地図)
	4 黙祷する人々 (岩手県宮古市田老地区)	黙祷する人々 (宮城県石巻市大川小学校) (☆日本地図)
	5 大川小学校 (宮城県石巻市)	黙祷する人々 (岩手県野田村) (☆日本地図)
	6 黙祷する人々 (宮城県石巻市大川小学校)	黙祷する作業員 (福島県楢葉町) (☆日本地図)
	7 黙祷する捜索隊員たち (福島県浪江町)	国立劇場壇上慰霊台 (☆日本地図)
	8 捜索隊員とF1排気塔 (福島県浪江町)	
【2016】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
	3 黙祷する人々 (岩手県宮古市田老地区)	寺の境内 (岩手県陸前高田市) (☆日本地図)
	4 奇跡の一本松 (岩手県陸前高田市)	行方不明者の墓 (岩手県陸前高田市) (☆日本地図)
	5 黙祷する人々 (宮城県名取市)	防災対策庁舎 (宮城県南三陸町) (☆日本地図)
	6 黙祷する人々 (宮城県南三陸町)	黙祷する僧侶と人々 (宮城県南三陸町) (☆日本地図)
	7 黙祷する捜索隊員 (福島県浪江町)	黙祷する人々 (福島県楢葉町) (☆日本地図)
	8 黙祷する作業員と花 (国立劇場)	国立劇場壇上慰霊台
【2017】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
	3 黙祷する人々 (岩手県宮古市田老地区)	黙祷する人々 (福島県浪江町追悼式会場)
	4 黙祷する工事作業員 (岩手県宮古市田老地区)	黙祷する人々 (宮城県仙台市句台公園)
	5 黙祷する工事作業員 (岩手県陸前高田市)	黙祷する人々 (宮城県南三陸町さんさん商店街)
	6 防災対策庁舎 (宮城県南三陸町)	黙祷する人々 (岩手県宮古市田老防潮堤)
	7 黙祷する僧侶たち (宮城県南三陸町)	国立劇場壇上慰霊台
	8 黙祷する人々 (宮城県石巻市)	
	9 空き地と海 (福島県浪江町)	
	10 旧大川小学校 (宮城県石巻市)	
【2018】	1 国立劇場壇上慰霊台	国立劇場壇上慰霊台
	2 国立劇場内閣僚	国立劇場内閣僚
	3 黙祷する人々 (岩手県宮古市田老地区)	国立劇場秋篠宮夫妻
	4 軌跡の一本松～黙とうする人々 (岩手県陸前高田市)	黙祷する人々 (宮城県名取市関中中学校)
	5 黙祷する人々 (宮城県南三陸町)	黙祷する人々 (福島県いわき市南台応急仮設住宅)
	6 キャンドル～黙とうする人々 (宮城県石巻市)	黙祷する人々 (岩手県宮古市田老防潮堤)
	7 黙祷する人々～福島第一原発排気塔 (福島第一原発)	黙祷する人々 (宮城県南三陸町さんさん商店街)
	8	国立劇場壇上慰霊台

4-2 そのほかの象徴的な事物

震災を象徴する事物は、前述のもの以外にも数多くある。対象別に主なものを挙げてみよう。

被災・被害…………ガレキ、打ち上げられた船（第18共徳丸）、津波跡地、仮設住宅、奇跡の一本松、南三陸町防災対策庁舎、大槌町役場、大川小学校など

原発事故…………福島第一原発建屋、福島第一原発排気塔

復興…………三陸鉄道、復興商店街、防潮堤

放射能汚染…………線量計、防護服、除染廃棄物を入れた袋

被災と時の経過…時計 **【写真14】**

慰霊・鎮魂…………キャンドル、風船、灯ろう **【写真15、16】**



【写真14】 2013年 テレ朝「スーパーJチャンネルスペシャル〜“震災” いまも…3年目の現実〜」



【写真15】 2012年 TBS「朝ズバッ！ 絆スペシャル」



【写真16】 2017年 フジ「めざましどようび」

これらの風景や事物は、「奇跡の一本松」や「防災対策庁舎」のような具体的な場所や建物から、地震や津波で止まった「時計」や文字をかたどった「キャンドル」のように、より象徴性の高いものまでさまざまである。これらの意味合いや使われ方について、今後より詳細な分析の必要性を感じているが、それぞれの定義や計量の方法など、検討すべき課題も多い。

4-3 今後の分析に向けて

今回、取り上げた事例は、津波の後の市街地に取り残された「第18共徳丸」、骨組みだけとなった「防災対策庁舎」、ぽつんと1本だけそびえ立つ「奇跡の一本松」と、3例とも非常に視覚的に強い印象を与える事物である。こうした、いわゆる“絵になる”事物が存在していることが、取材や中継の対象として選ばれることにどの程度関係しているのか、制作者の意識や、視聴率との関係なども含めて、詳しい分析が必要であろう。

また、こうした象徴的事物が存在することが、取材や中継地の選択に影響するとすれば、取材・中継される場所の偏りを産むとともに、被災地のイメージを一定のパターン、枠組みに閉じ込めてしまう可能性もある。現に、今回分析した各年の「黙祷シーン」の映像などには、そうしたパターン化の傾向が感じられた。

ただ、象徴的事物の使用は、いわゆる「ステレオタイプ」につながる一方で、視聴者の記憶や認識を効率よく喚起する効果も持っている。このように、「映像」の特性や効果の測定は、一筋縄ではいかない難しさを伴う。

また、作業的にも課題が多い。今回の作業では、どのような映像がどのような場面（文脈）で使われているかを、3つの事例について確認するにとどまった。今後、こうした映像使用については、映像に付されたコメントとの関係、どのような角度や構図で撮られ、そのことにどのような意味が付されているのか、など多様な側面からの分析が必要になるだろう。それ以前に、それぞれの映像をどう定義し、どのように計量するか、その作業を人力で行うのか、機械的に行うことが可能か、など、検討すべき課題は数多い。「映像」の分析は、先行研究も少なく、手法についても模索段階ではあるが、今後、いろいろな角度からの研究が蓄積されていく必要があるだろう。

- (1) 日米テレビ報道比較研究委員会 (1995)「日米テレビ報道比較研究 テレビは相手国をどう伝えているか」
- (2) 河野謙輔ほか (1996)「世界のテレビは戦後 50 周年をどう伝えたか」NHK 放送文化研究所年報 41
- (3) 原由美子・重森万紀・鈴木裕司 (2002)「その夜、人々はテレビをどう見たか— 3.11 同時多発テロの視聴行動分析」『放送研究と調査』2002 年 3 月号
- (4) 「安保法案報道」分析チーム (2016)「安全保障関連法案テレビ報道の分析」『放送研究と調査』2016 年 10 月号
- (5) 田中孝宜・原由美子 (2011)「東日本大震災 発生から 24 時間 テレビが伝えた情報の推移」『放送研究と調査』2011 年 12 月号
 田中孝宜・原由美子 (2012)「東日本大震災 発生から 72 時間 テレビが伝えた情報の推移—在京 3 局の報道内容分析から」『放送研究と調査』2012 年 3 月号
 原由美子 (2015)「震災後 3 年間 テレビ番組で何が伝えられてきたのか〜ドキュメンタリー番組に描かれた被災者・被災地」『NHK 放送文化研究所年報』No.59
 原由美子 (2017)「東日本大震災から 5 年 電台番組は何を伝えてきたか〜夜のキャスターニュース番組とドキュメンタリー番組〜」『NHK 放送文化研究所年報』No.61
- (6) 戦後 50 周年報道の国際比較では、原爆投下=きのこ雲の映像の使用頻度の分析、同時多発テロ報道では、ビルの崩壊など衝撃映像と視聴率の関係を分析したことがある。
- (7) 米倉律 (2017)「震災テレビ報道における情報の『地域偏在』とその時系列変化」『Journalism & Media』No.10、日本大学法学部新聞学研究所など
- (8) 原由美子・大高崇 (2019)「3.11 はいかに語り継がれるか〜東日本大震災後 7 年・テレビ報道の検証〜」『NHK 放送文化研究所年報』No.63 (2019 年 1 月発行予定)
- (9) テレビ番組の内容や関連情報の影響を行う JCC 社が作成した番組内容の要旨。

